

令和5年度 学校自己評価

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

区分	項目	現状	課題	達成目標・方略	進捗状況	到達度	今後の課題
校務分掌(部)	教務部	<p>本校の教育目標に沿った教科の学習活動の実践と適切な学習評価が行われるよう、教務内規に基づいて校務を分担している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を見据えた主体的学習姿勢を養う科目選択機会の活用 ・生徒の学力の多面的評価についての教務面からの検討 ・教務と進路の連携を意識した役割分担の検討 ・生徒の立場に立った進路指導の推進 ・有意義な教育実習の在り方の検討 ・教務関係事務の効率的な進め方や新たなルールの検討、整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年及び各教科と適切に連携し、生徒が希望する科目をできるだけ良好な学習環境で履修できるように講座編成を行う。 ・次期指導要領の趣旨に従い、教育課程を編成するとともに、適切な評価(評定)のあり方について検討を行う。 ・進路情報の提供、生徒の進路希望の把握に努める。 ・教育実習の在り方について、大学および連携校との連携を密にする。 ・校務支援ソフトの円滑な運用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目選択の傾向はさらに変化し、講座編成、学級編成が困難となってきた。 ・新教育課程の編成はできたが、この教育課程による入試制度に不確定な要素が多く、見直しが必要となる可能性がある。 ・大学入試の在り方が毎年のように変わり、生徒も進路指導担当も対応に苦労する状況が続いている。 ・教育実習については大学の改編の影響で大きな変化が求められている。 ・校務支援ソフトの制約が多く、校内システムとのすり合わせが大変である。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降、出席簿を廃止するにあたり、出席状況の把握方法に関して、校務支援ソフトとの連携を考える必要がある。 ・校務支援ソフトの運用について現時点では教務の業務増大になっている。 ・教育課程の観点別評価については、校内の共通理解を深める必要がある。 ・大学の入試制度の変化に対応した進路指導を心掛ける必要がある。
	生活指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年より1名、養護教諭、部長の5名体制。 ・健康診断、教育相談、自転車安全指導、清掃指導、遺失物管理、対外的な対応、校門指導、問題行動時の指導、その他生活指導全般にかかわる支援を担当。 ・Chromebookの導入以降、学校生活でより一層ICTの活用がみられることから、一人一人の情報リテラシーを高めることが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者を尊重し、お互いに支え合い、高め合える集団づくり。 ・担任、養護教諭、スクールカウンセラー(SC)、学校安全推進センター、スクールソーシャルワーカー(SSW)と連携した生徒支援体制の構築および運営。 ・学校いじめ防止基本方針に基づく校内体制の構築および運営。 ・安全で安心できる学習環境の整備。 ・メディアリテラシー教育の充実。 ・生徒一人一人の安全に対する意識を高める。 ・登下校時のマナーの向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活、社会生活におけるマナーの指導。 ・基本的な生活習慣についての支援。 ・担任、養護教諭、スクールカウンセラー(SC)、学校安全推進センター、スクールソーシャルワーカー(SSW)との連携、連絡体制の強化。 ・北摂地区補導連絡協議会への参加と情報交換。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時のマナーに関する報告があった。 ・届け出された盗難件数は昨年度より大きく減少した。 ・各学年による「生指人権LHR」が有効に活用されていた。 ・生活指導部、担任、養護教諭、スクールカウンセラー(SC)、学校安全推進センター、スクールソーシャルワーカー(SSW)間で情報共有を行うことができた。 ・学校いじめ防止基本方針に基づく校内体制の構築および運営に努めた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・他者への思いやりや共感できる心を大切に総合的な指導。 ・安全、安心、信頼の空間づくり。 ・生徒の状況を全体で把握し、支援できる体制づくり。 ・いじめを未然に防止する校内体制づくり。 ・規範意識や情報リテラシーの向上。 ・清掃、整理整頓、貴重品管理の徹底。 ・欠席、遅刻、入校証忘れの減少。 ・ソーシャルスキルを高める講習・講演の実施。
	教科外活動部	<ul style="list-style-type: none"> 6名の部員で構成され、主に以下の業務を担当 ・生徒会指導(生徒会執行部や委員会の指導、生徒会行事の運営、部・同好会活動全体に関する業務の指導・調整) ・LHR運営指導・調整(リーダー(執行部・代議員)研修、活動場所の調整、LHR使用物品の管理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の教科外活動の意義を教員と生徒とで共有できていない部分があり、教育的効果を十分にあげることができていないところがあること。 ・少ない部員数で最大限の効果をあげるための生徒会指導の方法を確立すること。 ・学校行事での生徒の指導を教員全体で効果的にできるようにすること。 ・働き方改革の観点から部・同好会活動の新しい運営を確立すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科外活動の意義を教員生徒で共有する機会を設けるとともに、生徒と対話する機会を増やす。 ・1つ1つの生徒会行事や企画の意義・目的を踏まえて活動内容を整理し、よりよい方法を検討させる機会をつくる。 ・Google ClassroomやFormsなどのオンラインツールを活用し、生徒の活動に適宜フィードバックを行うことで、計画的かつ継続的な委員会活動を行うことができるようにする。 ・学校行事での教員全体の役割分担をもとに、より積極的に生徒と関わり学校全体として指導できる教員体制を構築する。 ・部・同好会の付き添いに生徒係当番制・部活動指導員・部活動サポーターを導入し教員の業務負担を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部、委員会3役で集まり、意見交換や情報共有する場を定期的に設定した。その場で個々の生徒会行事や企画の意義・目的を再確認し、より効率的な執行部・委員会活動の在り方を意識させるとともに、教員との意思疎通を図った。 ・G-Suiteを活用し、1年間の活動記録のまとめとふり返り、次年度の検討課題等の整理、過去の情報を活用した行事の運営を促した。 ・附高祭で教員全体の役割分担を作成し、より積極的に生徒と関わり、学校全体として指導を行った。 ・部・同好会の付き添いに生徒係当番制・部活動指導員・部活動サポーターを導入し、平日・休日の教員の負担が少し軽減された。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教員及び生徒と教科外活動の教育的意義をより明確に共有・意識していく必要がある。 ・教員の役割分担を再検討し、効果的に生徒の資質・能力を育む方法を模索する必要がある。 ・部活動指導員・部活動サポーターのより効果的な活用方法を模索する必要がある。
	教育研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・池田地区附属学校共同研究に取り組み、研究発表会を実施している。 ・教員研修や小中高共同研修会の実施、校内授業見学推進期間の設置、各種研究会・研修会の案内と参加調整を行っている。 ・本校Webサイトや『研究紀要』を通じて、教育研究の内容およびその成果を、外部に情報発信している。 ・3学年の「グローバル探究」科目について、教員チームを統括して授業運営をコーディネートしたり、クロスカリキュラムを実施したり、生徒の学外発表を支援したりしている。 ・WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業の共同実施校として、関連機関と連携して教育プログラムを企画・実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・池田地区小中高全体で共同した教育研究活動。 ・近年の動向を踏まえた教育研究。 ・教育研究活動の外部発信。 ・「グローバル探究」の継続的・発展的な指導体制の構築。 ・WWL関連機関と連携した教育プログラムの運営。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会を協働的に創造することができる人材を、12年間の教育を通して育成することをめざし、そのための指標「コンモノブリック」を池田地区附属小・中と協働して開発する。 ・近年の動向を踏まえた教育研究のために、校内研修の開催、校内授業見学推進期間の設置、各種研究会・研修会の案内等を行う。 ・教育研究を発信するためのWebサイトの整備と、研究紀要の発行。 ・「グローバル探究(総合的な探究の時間)」のカリキュラムの開発および、基本的な枠組みの整理を行う。 ・WWL事業管理機関である大阪教育大学や拠点校の平野校舎、および連携機関・連携校との調整を適切に行い、多様な教育プログラムを企画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会を協働的に創造する人材の育成をめざして、小中高共同研究を行い、11月の研究発表会では関連する教育実践を発表し、年度末にコンモノブリックの開発を終えた。 ・「エージェンシー」をテーマとした講演会を含む4回の校内研修を開催し、教育実践共有の場として2回の校内授業見学推進期間を設けた。全附連など各種研究会・研修会の情報発信・参加調整を行い、近附連は当番校として運営補助を担当した。 ・情報更新の停滞や、教員異動による管理者不在の項目が課題となっていた教育研究発信サイトを整備し直し、更新しやすいつつ持続可能なサイトに整えた。また、研究紀要を編集・発行し、リポジトリ登録と関連機関への周知をした。 ・本校でこれまで培ってきた「探究」学習に関する教育研究活動実績をもとにして、カリキュラム開発委員と共同し、本校の「探究」学習における基本枠組みを作成した。教科・科目間連携のクロスカリキュラムを実施したり、学年を超えた交流の機会を設けたりした。 ・WWL事業に関する教育プログラムとして、昨年度まで1月に開催していた「高校生国際会議」を二部制とし、国際交流をメインとした「海外連携校オンライン・ディスカッション」を9月と10月に、ワークショップと分科会からなる「研究発表会」を1月に実施した。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成」に向けて、小中高で共同開発したコンモノブリックを、今後どのように活用していくか、池田地区全体で教育研究や教育実践のあり方を検討していく。 ・各教員が日常的に教科教育の研究に取り組み、その成果を外部発信できるよう、引き続き様々な機会を提供できるように努める。 ・これまでの国際教育やWWL事業の実績を踏まえ、複数の教科・科目、学年間での連携を図りながら、「総合的な探究の時間」を軸としたカリキュラムを発展させ、より充実した教育活動の実現をめざす。
	総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・SPS認証校として学校安全をさらに推進しつつ、その成果を外部に発信することが求められている。 ・「学校安全マニュアル」を毎年更新を行っているが、不審者侵入の3段階のチェック体制の追記が必要である。 ・本館3階の各教室の廊下側の鍵が破損している。学校安全の観点から早急に修繕する必要がある。 ・「さすまた」設置に関しては、職員室・事務室・研究室などの本館は設置済みであるが、国際センターやメディアセンターなどは、まだ未設置の箇所がある。 ・今年度からヒヤリハットシステムを導入する。 ・毎年、教室の机とイスを新品に交換しているが、例年10脚ずつの交換であり、交換したほうがよい状態の机とイスがまだある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SPS認証校としての学校安全に関する外部への発信 ・「安全マニュアル」の不審者侵入の3段階のチェック体制が不記載 ・学校安全への高校生の参画をどのように実現するかを検討 ・「安全点検」の内容の再確認と活用方法の検討 特に、海外研修に関する学校安全マニュアルの作成 ・国際センターなどの未設置な場所への「さすまた」の設置 ・3階の窓が転落防止の措置が取られていない ・本館3階の各教室の廊下側の鍵の修繕 ・ヒヤリハットシステムの運用方法や活用方法 ・「非常用医薬品袋」をどのように継続していくかの検討 ・教室の机とイスの更新(入れ替え) ・教員用パソコンの管理と更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・SPS推薦委員の指導・助言を受けつつ、SPSの7つの指標の達成を図る。 ・SPSサポーター委嘱制度を導入し、生徒が学校安全により積極的に取り組む方法を検討する。 ・文部科学省からの資料をもとに、「安全マニュアル」を見直し必要な改訂を行う。 ・学校安全の観点から本館3階の各教室の廊下側の破損している鍵の修繕を早急に行う必要がある。 ・ヒヤリハットシステムの運用方法を確立して、有効的な活用方法を検討する。 ・「さすまた」を、国際センターやメディアセンターなどに配置する。 ・教室用の机とイスを早い時期に購入して、更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員によるSPS発信として、依頼元が文部科学省委託(株)社会安全研究所「学校安全実践力向上セミナー実践報告」防犯対策・防犯訓練事例」や大阪府教育センター「大阪府立学校の首席研修「学校における危機管理」」などを行った。 ・3月の学校安全委員会では大阪教育大学の後藤健介先生にご参加いただき助言を得る。 ・SPSサポーター委嘱制度を導入し、SPSサポーター会議を定期的に開いた。防災訓練での教員と生徒の共同企画・実施・振り返りのほかヒヤリハットマップの検討、新しい通学路の検討、次年度からの生徒用スリッパの検討などを行った。その結果、生徒用スリッパは次年度からかかと付きの上履きに変更することになった。 ・来年度からの中期目標・中期計画として交通安全を重点とすることを学校安全委員会を確認した。 ・『安全マニュアル』の改訂を毎年行っているが、今年度は不審者侵入の3段階のチェック体制の追記した。 ・「安全点検」についてはQRコードによる入力を4月以降、全面実施した。 ・本館3階の各教室の廊下側の破損している鍵の修繕した。 ・3階の窓が転落防止の器具を設置できた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・SPS認証校となり2年が経ち、次年度は再認証を申請する予定である。ただ、SPS認証校とはいえ、解決すべき課題は多い。SPSサポートメンバー委嘱制度は、昨年度に引き続き行ったが、生徒の動きはまだまだ活発とはいえない状況である。安全教育に関しても、地震・火災・防犯訓練にあわせて、SPSサポートメンバーによる事前学習を行なったが不十分な面もある。生徒や教職員が学校安全に対する認識をより高めるような安全教育の開発をすすめ、より多くの生徒や教職員が、本校をより安全な学校となるための活動を積極的に行うようになっていく必要がある。 ・『安全マニュアル』の改訂については現在進行中であるが、特に次年度は海外研修の安全マニュアルを追記する予定である。 ・今年度に関しては、予算の関係上、教室の机とイスの購入ができず、交換したほうがよい状態のものがまだ複数残っている。また、同様に予算の関係で、教員用パソコンが更新できなかったことも課題である。

令和5年度 学校自己評価

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

区分	項目	現状	課題	達成目標・方略	進捗状況	到達度	今後の課題
校務分掌（委員会）	広報委員会・	<p>◇主な活動 <広報活動> ○学校案内の作成と各中学校への案内送付 ○中学校訪問 ○学校HPの管理・更新 ○学校インスタグラムの管理・更新 ○池田市との交流事業</p> <p><説明会> ○学校説明会(SG)&体験授業 ○大阪府進学フェア ○塾向け説明会 ○塾訪問</p> <p><学校行事関係> ○視聴覚行事 ○次年度研修合宿・遠足の計画&業者打ち合わせ</p>	<p>○塾及び中学校訪問先の焦点化</p> <p>○各種説明会で利用する説明内容及びスライドの精選</p> <p>○SGや大阪府進学フェアで配布するグッズ内容と数の見直し</p> <p>○視聴覚行事の業者の選定の固定</p> <p>○視聴覚行事鑑賞マナー、登下校マナーの改善</p>	<p>○近隣地域の塾訪問を5月中頃までにそれぞれ10件程度実施する。</p> <p>○集客数を意識した大阪府進学フェアやSGの内容の企画をする。</p> <p>○学校案内の内容を刷新する。</p> <p>○池田市との交流事業を企画・実施する。</p> <p>○視聴覚行事では、良い芸術作品に触れさせると共に舞台鑑賞マナーを学ぶ。</p> <p>○地域(保育園等)との関係作りを進めていく。</p>	<p>○様々な形で広報活動を行なった結果、令和6年度入試の出願数は以下の通りになった。()内は前年度比(%)</p> <p>連絡進学: 100 (114%) 一般: 72 (131%) 国際: 5 (167%) 合計: 177 (120%)</p> <p>○HPやインスタグラムを活用することで中学生に届く情報発信を心がけた。(2024/02/08時点でフォロワー数300人、投稿数40件) ○旧HPの平均アクセス数は1日100人にも満たなかったが、今年度は定期的な更新を行うことで平均アクセス数1日200件程度をキープし続けた。 ○附高祭広報と連携し、中学生に本校の学校行事を体験できる機会を設けた。</p>	5	<p>○附高祭→大阪府進学フェア→学校説明会(SG)→進学情報展→進学相談会という流れを意識した広報活動を計画する。また、各説明会の立ち位置を明確にする。</p> <p>○学校案内の内容を時代の変化に合わせて随時更新する。</p> <p><学校行事関係> ○視聴覚行事では生徒事後アンケートによると、帰宅する際の附高生のマナーの低さについて指摘があった。生徒下校時には全体に対して注意喚起をするとともに、教員を配置し下校指導を行うことを検討する。</p> <p>○視聴覚行事の業者選定に関しては、係員に負担がかからないように数年先を見据えた計画的な実施を心掛ける。</p> <p>○研修合宿では施設を変更したため、内容を含め学年に引き継ぎを行う。</p>
	国際教育委員会	<p>・国際交流活動の案内・集約(トビタテ！留学JAPAN等) ・国際枠入試入学者の交流会実施 ・海外実地研修(カナダ)の計画・実施 ・海外実地研修(ベトナム)の計画・実施 ・韓国サンダン高校との交流計画・実施 ・ユネスコスクール研修(リトアニア)の計画・実施 ・海外交流参加者の学びの共有(マルカル通信の発行) ・大阪教育大学留学生との交流会計画・実施(ランチタイムチャット)</p>	<p>・感染症の影響で数年間実施できていなかった対面での海外校との交流実施に向けて、計画・実施を行う。</p> <p>・国際委員の生徒や海外研修参加者が主体的に参加できる研修を企画し、生徒たちに海外校との交流が学びの機会となるようにする。</p> <p>・マルカル通信の発行や海外実地研修中の校内ブログの更新から、研修参加者の学びを校内で共有する機会を設ける。</p>	<p>・カナダ研修の実施時期を見直し、現地ならではの体験や活動ができるプログラムの再検討を行う。</p> <p>・ベトナム研修では、参加人数を増やして研修を実施するために、現地の大学生に協力を依頼するプログラムの再検討を行う。</p> <p>・韓国サンダン高校の訪日に関して、校内での役割を整理する。</p>	<p>・本年度はトビタテ！留学JAPANを活用して留学を経験した生徒も多く、感染症のため実施できていなかった海外での活動を本格的に実施できた。</p> <p>・カナダ研修では、昨年度から実施時期を見直し、現地ならではの体験を含む行程の実施ができた。</p> <p>・ベトナム研修では、校内の探究学習を活かした事前学習に取り組むことで、生徒が課題意識を持って研修に参加することができた。</p> <p>・韓国サンダン高校との交流では、5日間の日程でサンダン高校の生徒・教員を迎え、5年ぶりの対面交流を実現できた。</p> <p>・マルカル通信は年間4本発行し、昨年度より発信の機会を増やすことができた。</p>	5	<p>・韓国サンダン高校との交流について、校内での役割整理ができたので、次回以降、生徒がより主体的に関わることができる交流のあり方について見直していく。</p> <p>・海外研修先の再検討を行い、より生徒の学びを深められる研修について考える。</p>
	情報化推進委員会	<p>・校内の情報機器・アカウント等の管理・整備</p> <p>・新入生のChromebookの選定と告知、新入生ガイドの実施</p> <p>・図書館に関する業務(購入図書の見直し・図書だよりの発行/図書返却督促など)</p> <p>・デジらく採点運用のサポート</p>	<p>・学校全体の教育や校務の情報化の平準化。</p> <p>・整理ができていないデータが散乱したり、容量の圧迫が見られる。</p> <p>・全生徒の約半数しか本校の図書館を利用していない。</p> <p>・附属中学校と附属高校で生徒が使用している機器やアカウント・アプリケーションに違いがあるなど、附属中学校との連携不足が見られる。</p>	<p>・学校全体の教育の情報化の推進</p> <p>・生徒の探究活動の支援</p> <p>・情報メディア(ICTと図書)活用力の育成</p> <p>・校内の情報機器・アカウントの管理の徹底</p> <p>・ICT機器を活用した教育活動についての研修の実施。</p>	<p>・デジらく採点のマニュアルが一新され、使いやすいものになったことでデジタル採点の利用者が増加した。</p> <p>・メディアセンター2階PCルーム(CAV)がこれまでの仕様とは違い、4人に1台PCの配置に変更されたことにより、空間が広がり、協働学習が可能な教室になった。</p> <p>・69期Chromebookの選定、66～68期Chromebookの故障・不具合の対応を行った。</p> <p>・電子黒板無線接続機(TrinityVison)やプロジェクターの故障・不具合の対応を行った。</p> <p>・池高職員共有ドライブの整理を行うことで残り容量を増やした。</p>	4	<p>・附属中学校の2025年度連絡進学生が中学校入学時にChromebookを購入しているため、高校入学時に新たにChromebookを買わせることには疑問であることから、現在のBYADからBYODに変えていく必要がある。</p> <p>・デジタル機器の利用を推進するだけでなく、生徒の能力を伸ばすような情報機器の利用方法を模索していかなければならない。</p> <p>・生徒のデジタル機器の使用法やモラルに関する指導について考えていく必要がある。</p>
	カリキュラム開発委員会	<p>「WWL推進委員会」の発展的改組として、令和5年度に発足した委員会である。</p> <p>カリキュラム開発を目的として、1年間の期限で業務を行う。</p>	<p>①WWLコンソーシアム構築支援事業共同実施校としてこれまで取り組んできた実績を基に、先進的なカリキュラム開発を行う必要がある。「グローバル探究I・II」を軸として教科科目等が連携し、本校のスクールポリシーに沿った資質・能力の育成を図る包括的なカリキュラムの開発を行っていく。</p> <p>②「イノベティブシンキング」、「アカデミックリーディング・ライティング」、「データサイエンス」、「教師にまっすぐ」を継続して実施する。</p> <p>③ ②について、R6年度以降の在り方について検討する。</p>	<p>①R6年度以降に備えて、「グローバル探究 I・II」を軸として教科科目等が連携し、本校のスクールポリシーに沿った資質・能力の育成を図る包括的なカリキュラムを開発し、教職員の合意形成を図る。</p> <p>②「イノベティブシンキング」、「データサイエンス」、「アカデミックリーディング・ライティング」、「教師にまっすぐ」について、適切に役割分担を行い、円滑に運営する。</p> <p>③ ②について、R6年度以降の自走の在り方について考え、これらWWLコンソーシアム構築支援事業共同実施校としての蓄積をR6年度実施のカリキュラム開発に活かす。</p>	<p>①「探究を軸とした教科連携のクロスカリキュラム」を開発し、次年度からの実施が決定した。合意形成の過程において、すべての教員が納得し、チーム学校としてカリキュラムに取り組めるように、ワールドカフェ風の職員研修を実施した。</p> <p>②すべて実施済みである。委員会内だけでなく、全教職員の協力を仰ぎ、役割分担することによって円滑に運営できた。</p> <p>③自走可能な方法を考えながら運営することができた。</p>	5	<p>今年度でカリキュラム開発委員会は役目を終える。カリキュラム等の運営や見直しについて、教育研究部へ引き継ぎを行う。</p> <p>引き継ぎ資料を作成するとともに、全教職員へのカリキュラムや探究の在り方について周知徹底がなされるよう、教育研究部と連携を密にとり、適宜教員研修等を実施する必要がある。</p>